

# 令和4年(2022年)度心身科学研究所活動報告

所長 丸山和佳子

## 【全体】

心身科学研究所（以下、研究所）は平成20年（2008年）に開設され、今年で15年目を迎えました。これまで研究所は心身科学部の附属研究所として学部と連動した研究活動の活性化を行ない、多くの成果をあげてきました。

さて、令和4年度（2022年度）においては、次年度（令和5年、2023年度）より心身科学部が健康科学部に名称変更することに鑑み、研究所の新たなあり方と方針について学部内で活発な議論がなされました。その結果、研究所の活動を近年の社会情勢の変化、すなわち超高齢化社会と若年人口（大学生人口）の減少に対応させることが必要であるとの結論に至りました。

研究活動についてです。令和5年度（2023年度）以降の研究所の新たな活動の柱として、地域住民の健康増進を目的としたプロジェクト研究の基盤作り、研究フィールドの拡充を行うこととなりました。その結果、「高齢者の増加に伴うサルコペニア、認知症などをもつ虚弱（フレイル）を予防、あるいは進行を遅延させること」を目的として、2023年度より3年間「地域在住者の認知症予防に関する調査介入研究」を研究課題とすることが承認されました。

以下にプロジェクト研究の目的をまとめます。

- 1) 地域住民の研究フィールドを日進キャンパスに構築し、
- 2) 高齢者における認知症及びフレイルを予防し、健康を増進させるための運動、栄養、高次脳機能に関する学部学科横断的調査介入研究を行うとともに
- 3) 本学学生（大学院生を含む）に対する実践教育レベルを向上させる。

愛知学院大学の広大な日進キャンパスで上記の地域連携研究活動を行うことは、本学による社会貢献活動および学生のキャリア教育の向上が期待され、学則である「行学一体 報恩感謝」の精神に合致するものと考えております。今後とも皆様のご指導をお願いいたします。

次に研究所紀要「心身科学」についてです。

2022年度紀要から、心身科学部内における共同研究活動の活性化を目的として「新任教員紹介」の項を追加いたしました。

今後、研究所の活動を多くの方々に「目に見える」形とするために、2023年度からの紀要には「活動報告（仮称）」の項を設け、年度ごとのプロジェクト研究の進展をご報告いたします。また、学部と研究科の研究を連動させることを目的とし、修士論文の抄録掲載を追加する予定です。

その他の事項として、2023年度より研究所所属の研究員の名称を全学で統一し、「特任研究員」とすることとなりました。研究所の研究員におかれましては引き続き研究の活性化に力をお貸しいただけますようお願い申し上げます。

## 【2022年度の主な活動】

### （1）研究助成

2022年度の研究助成課題は以下の2つであり、いずれも順調に研究が進められました。具体的な研究内容につきましては2023年度の研究助成結果発表会、及び紀要に掲載される研究成果報告にて報告される予定です。

- 1) 女子サッカー選手における身体的特徴に応じたパフォーマンス向上プログラム  
(研究代表者 坂本慶子 講師)

- 2) 嚥下調整食の物性変化と新しい食品提供法の開発に関する研究  
(研究代表者 望月美佳 助教)

## (2) 研究所嘱託研究員の審査

2022年度の嘱託研究員について4名(金田宗久氏、近藤充代氏、鳥本大貴氏、直井信氏)の継続申請があり、これまでの業績ならびに研究計画書を中心として研究所委員が審査した結果、いずれも承認されました。

## (3) 講演会・研究会の開催

2023年2月22日(水)13時30分から16時30分14201号室において心身科学研究所研究会が開催されました。2021年度研究助成結果研究報告会の発表演題と発表者は以下の通りです。

- 1) 高齢者口腔内慢性炎症がADLに及ぼす影響について(丸山和佳子 教授)
- 2) 新型コロナウイルス感染症流行下の行動変容とメンタルヘルス、パーソナリティの関連性(谷伊織 准教授)
- 3) 扁桃肥大が与える発声・発話機能への影響(田中康博 助手)

いずれの発表についても活発な討論がなされました。

また、例年通り心身科学部FD委員企画の研修会が合同開催されました。

2022年度心身科学部FD研究会では、健康科学科の下村淳子教授から養護教諭コースにおける知識定着をねらいとしたアクティブ・ラーニングの取り組みについて紹介がなされました。

基調講演は桜美林大学大学院特任教授、国立長寿医療研究センター総長特任補佐である鈴木隆雄先生による「地域在宅高齢者に対する運動と栄養に関する介入研究の現状と展望」でした。講演内容は紀要の「基調講演」に掲載されているためここでは割愛しますが、高齢者の健康増進のための運動、栄養、心理学的介入について事例に基づいた結果と問題点について紹介がなされ、教員、学部及び大学院学生にとって大いに刺激を受ける内容でした。

## (4) 「心身科学」第15巻の発行

心身科学研究所の紀要「心身科学」を2023年3月付で発行します。内容は研究助成成果報告3編、新任教員紹介2編、学術研究1編、その他、の構成となりました。昨年度と同様、PDF版のみの作成になっております。

尚、紀要「心身科学」は資料の形態CD-ROMとして国立国会図書館にISSN(国際標準逐次刊行物番号)登録されております。